

# コレクション展 I

## 特集 「境界のむこう」

2019年3月16日（土）～6月23日（日）



1) 米田知子《ジョイスの眼鏡—シルヴィア・ビーチへの手紙を見る》  
「見えるものと見えないもののあいだ」より 1998年 ゼラチンシルバープリント  
©TOMOKO YONEDA

### 本展のみどころ

- ・当館収蔵品より、近代から現代までの絵画、写真、版画、彫刻など幅広いジャンルの作品約140点を展示します。
- ・境界を見つめる、超える、ずらす、そして、新しい境界線をひく・・・、「境界」をキーワードに多様な視点から作品を眺めていただく機会となれば幸いです。



## 開催趣旨

2019年度コレクション展の第I期では、「境界」をテーマとして展覧会を開催します。

私たちの身の周りには、大小さまざまな境界が存在するようです。個々の境界は、緩やかに変化し、移動し、新しく生まれて消えることもあるのではないのでしょうか。しかし、境界というものが無くなることはありません。事物を区分する境界は、乗り越えることがときに困難であり、ときに不可能なこともあるでしょう。一方で、境界の存在ゆえに守られているものもあれば、さらに、境界による線引きがあるからこそ、つながりを再認識し、相互の濃密な結びつきが生まれる可能性があるのかもしれない。

本展では、当館コレクションの名品を「境界」にかかわる6つのテーマに沿って展示します。多様なジャンル・時代の作品が、自分がある境界のこちら側と、むこうにある世界を見つめるためのきっかけとなれば幸いです。

## コレクション展

特集＝収蔵品によるテーマ展

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて48年にわたり収集活動を続け、現在10,000点を超える作品を収蔵しています。それらは収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されますが、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化に富んだ常設展示をおこなっています。

2019年度より「県美プレミアム」から、「コレクション展」へと改称します。

## 開催情報

### 2019年度 コレクション展Ⅰ 特集「境界のむこう」

会期 2019年3月16日(土)～6月23日(日)  
(前期展示：3月16日(土)～5月6日(月・休) 後期展示：5月8日(水)～6月23日(日))  
休館日 毎週月曜日(ただし4月29日(月・祝)、5月6日(月・休)は開館)および5月7日(火)  
開館時間 午前10時から午後6時 (特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで) ※入場は閉館の30分前まで

観覧料金 一般：500(400)[300]円／大学生：400(300)[200]円／70歳以上：250(200)[150]円／  
高校生以下：無料  
※( )内は20名以上の団体料金／[ ]内は特別展とのセット料金  
※障がいのある方(70歳以上を除く)は各観覧料金の半額、その介護の方1名は無料  
※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団のご協力により無料

会場 兵庫県立美術館 常設展示室(1階、2階)  
(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL:078-262-0901 <https://www.artm.pref.hyogo.jp>)

主催 兵庫県立美術館  
後援 公益財団法人伊藤文化財団、株式会社ハーフ・センチュリー・モア(サンシティタワー神戸)

## 第1章 領域

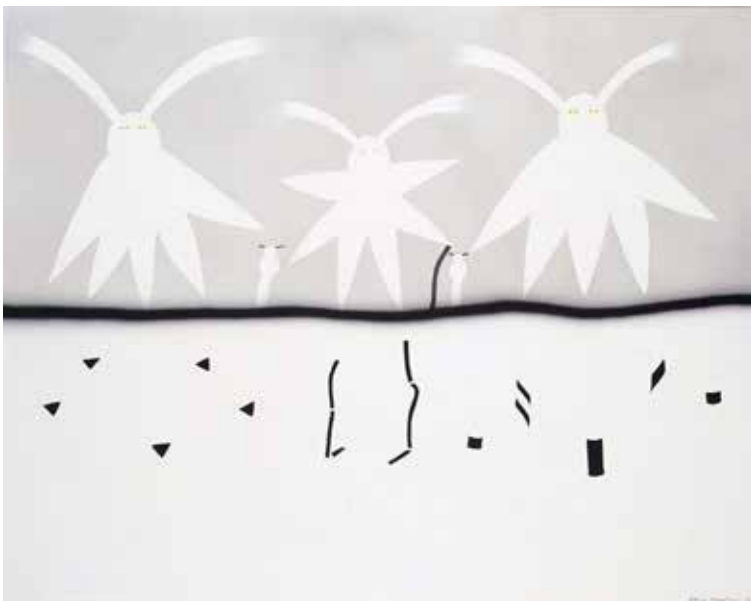
境界は、さまざまな領域をつくります。国という大きな場所はもちろんのこと、もっと狭い地域や部屋、そして、物理的な場所のみならず、心理的なテリトリーまで、それぞれの領域は、境界によって定義され、ときには、守られていることもあるでしょう。まず、はじめの章では、領域というものが描かれた作品をご紹介します。



2) 小松益喜《元居留地風景》1939年 油彩・布

## 第2章 線をひく

作家は、キャンバスや紙の上にさまざまな線をひいて絵を描きます。キャンバスにひかれた1本の線は、境界のように画面を分割することもあるでしょう。本章では、線によって区切られ、構成された作品を展示します。



3) 中辻悦子《内外》1983年 アクリル・布 山村コレクション

### 第3章 東／西



4) 森村泰昌《セルフポートレート 女優／ビビアン・リーとしての私1》1996年 カラー写真

作家たちは表現を通して、さまざまな境界を越えていきます。明治維新以降に洋画を志した日本人画家たちは、西洋の技法や主題を学びました。そして、現在活躍する作家もまた、東洋的な要素と西洋的なものを融合させた表現を展開しています。

### 第4章 生／死



5) 北村四海《橘媛》1915年 ブロンズ

生と死の間には、絶対的な境界線が存在しています。家族や親しい友人を失うという耐え難い体験から制作へと向かう作家もいます。そして、生の輝きや巡る生と死を表現することで鎮魂の祈りが込められた作品をご紹介します。



6) 舟越桂《消えない水滴》1986年 彩色、大理石、楠木

## 第5章 他者／自己

ときには絶望的に思えるほどの他者との違いを埋めることはできるのでしょうか。自己と他者の姿に改めて出会い見つめ直す、その端緒となる作品を展示します。人との差異を発見することで、自身の姿が見えてくることあるのではないのでしょうか。



7) 浅原清隆《海を見た》1937年 油彩・布

## 第6章 現実／非現実

意識と無意識の狭間で、夢か現実かわからない世界を描いたシュルレアリスムの作家たちをはじめ、自然の描写の中に現れた不思議な光景など、境界線の曖昧な世界が描かれた作品をご紹介します。

## 小磯良平記念室・金山平三記念室

神戸が生んだ近代洋画の巨匠、小磯良平（1903-1988）と金山平三（1883-1964）の画業を顕彰する記念室でも、それぞれ「境界」とゆるやかに関連するテーマを設けて展示を構成します。



8) 金山平三《大石田の最上川》1948年頃 油彩・布

山形県の大石田町と横山村（当時）の境界を流れる川の眺め。

## 展示室 5（彫刻展示室）

当館の近現代彫刻コレクションより、「ウラとオモテ」など、特集とつながるテーマに沿って作品を選び、紹介します。



9) エミール=アントワヌ・ブールデル《母と子》1893年  
ブロンズ

レリーフ状の彫刻で、会場では作品の裏側も見えるように展示。人物彫刻とは、人間の皮膚を象った境界面による表現であることを実感いただけるでしょう。

## 関連事業

### (1) 学芸員によるギャラリートーク

3月30日（土）、4月27日（土）、5月18日（土）

※いずれも午後4時より（所要時間：45分） ※参加無料、要観覧券

### (2) ミュージアム・ボランティアによるガイド・ツアー

会期中の金・土・日曜の午後1時から（所要時間：45分） ※参加無料、要観覧券

## お問い合わせ先

兵庫県立美術館  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1  
TEL: 078-262-0901 (代表) FAX: 078-262-0903 (代表)  
https://www.artm.pref.hyogo.jp

取材・画像提供に関すること

営業・広報担当

TEL: 078-262-0905 (担当直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913 (学芸直通)

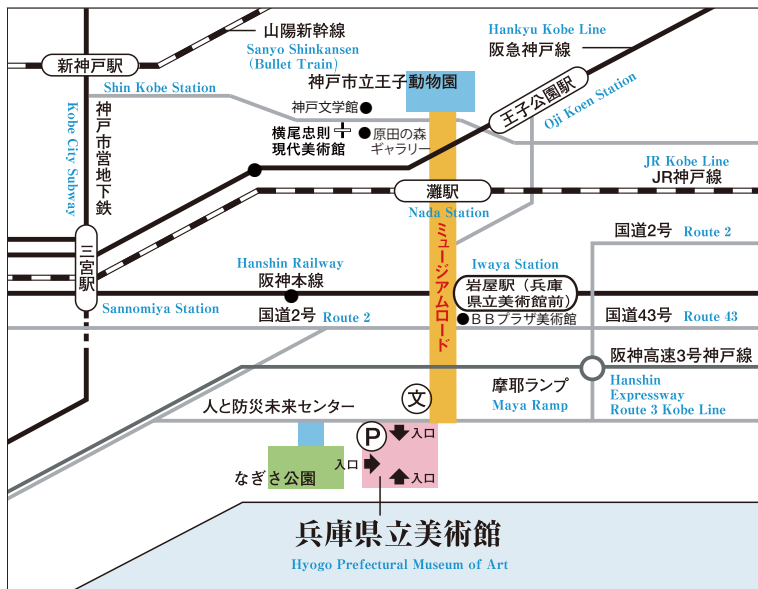
特集「境界のむこう」

担当学芸員：橋本こずえ、江上ゆか

e-mail: hashimoto.k@artm.pref.hyogo.jp

## 【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
  - ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
  - ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
  - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分  
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
  - ・ 地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
- \*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください  
\*団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



## 広報用画像について留意事項

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

○作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

○作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。

○画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません（会期終了まで）。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

○基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。

○展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

○本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。

## 美術館の日

2002年4月6日に兵庫県立美術館が開館したことを記念して、2019年4月27日（土）・28日（日）に、多彩なプログラムを開催します。

## 広報画像申込書

コレクション展Ⅰ 特集「境界のむこう」 2019年3月16日(土)～6月23日(日)

※前頁「画像使用に際しての注意」をご一読のうえ、ご希望の画像の番号に○をつけてください。

- 
- 1 米田知子《ジョイスの眼鏡ーシルヴィア・ビーチへの手紙を見る》  
「見えるものと見えないもののあいだ」より 1998年 ゼラチンシルバープリント ©TOMOKO YONEDA
- 
- 2 小松益喜《元居留地風景》1939年 油彩・布
- 
- 3 中辻悦子《内外》1983年 アクリル・布 山村コレクション
- 
- 4 森村泰昌《セルフポートレート 女優／ビビアン・リーとしての私1》1996年 カラー写真
- 
- 5 北村四海《橘媛》1915年 ブロンズ
- 
- 6 舟越桂《消えない水滴》1986年 彩色、大理石、楠木
- 
- 7 浅原清隆《海を見た》1937年 油彩・布
- 
- 8 金山平三《大石田の最上川》1948年頃 油彩・布
- 
- 9 エミール＝アントワヌ・ブールデル《母と子》1893年 ブロンズ
- 

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名：

○媒体名： (新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他)

○ご担当者名：

○メールアドレス：

ご連絡先 ○電話番号：

○FAX 番号：

○ご住所： 〒

○URL：

○掲載・放送予定日：

○画像到着希望日：

○読者・視聴者プレゼント用招待券： 組 名 様分を希望

(最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)